

令和2年度

鳴門教育大学大学院学校教育研究科

高度学校教育実践専攻 教科実践高度化系

芸術・体育系教科実践高度化コース 保健体育科教育分野

学修成果発表会



日時：令和3年2月13日（土）10：00～11：10

場所：健康棟 E202 教室



令和2年度学校教育研究科高度学校教育実践専攻芸術・体育系教科実践高度化コース
保健体育科教育実践分野学修成果発表会

(1) 日時: 令和3年2月13日(土) 10:00～11:10

(2) 場所: 健康棟E202教室

(3) 次第

1)開会の辞: 松井分野長 10:00～10:05

2)最終成果報告 10:05～11:05(発表15分・質疑15分)

3)講評: 木原大学院教務委員 11:05～11:10

	氏名	実習責任教員	開始時間	最終成果報告書題目
1	田中 直人	木原 資裕	10:05	生徒の興味・関心を高める保健授業の実践を目指して
2	鳴川 宗志	松井 敦典	10:35	保健体育の授業における「思考力, 判断力, 表現力等」を育成する 構想展開 ～資質・能力の3つの柱を育むために～

生徒の興味・関心を高める保健授業の実践を目指して

高度学校実践教育専攻教科実践高度化系
芸術・体育系教科実践高度化コース
保健体育科教育実践分野
氏 名 田中 直人

実習責任教員 木原資裕
実習指導教員 松井敦典

キーワード: 保健授業, 生徒の意欲・関心, 授業実践

1 課題設定の動機と背景

近年, 生活環境や自然環境が変化し, 児童生徒の健康問題は多岐にわたっている。上田らは, 児童生徒が生涯を通じて健康な生活を送ることができるように学校教育において指導することは極めて重要であり, すべての児童生徒が学習し, 指導時間が確保されている保健教育の果たす役割は大きいと報告している。文部科学省では, 保健と体育をより一層関連させるため, 健康とスポーツの関係を踏まえた内容や資質・能力を検討している。その中で保健は, 小学校から高等学校までの指導内容の体系化を図り, 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力の育成を目標としている。

しかしながら, 多くの保健体育教師は, 保健に対して苦手意識を持っている。中川と高橋によると, 日本の学校教育では, 保健体育の教師が保健を担当するが, その多くがもともと「体育・スポーツ志向者」ではないかと述べている。よって, 保健への関心は概して低いといえる。また, 教授学的に見て, 保健と体育では両科目に大きな隔りがあるとも述べられている。そして, 先行研究から, 中学校保健体育科教員の保健に関する専門的素養が低いことや, 保健授業を行うにあたり, 教材研究の時間が十分に取れないこと, 資料入手の困難さ, 授業時間の定着化の難しさ, 実験・実習に際しての不十分な器具や設備, 児童生

徒の関心の低さなどが挙げられる。保健授業を行う教師について, 野津らは, 中学校保健体育教師の指導意欲や実施状況等, 保健全般に対する意識が低調であると述べている。生徒が興味関心を持って学習活動に取り組めることは, 授業の基礎要件であると考える。

また, 「教え力」(齋藤孝 2004)によれば, 授業では教科書だけでなくオリジナルのテキストを用いることで学ぶ側の感動を呼び起こすと述べられている。さらに, 生徒に退屈させず学習効果を上げるためには, 教師のライブ能力が重要であるとしている。

これらを参考に生徒の興味・関心を高める保健授業を作成し, 今回のフィールドワークでの授業実践を試みた。

2 授業実践および分析

教科教育課題フィールドワークは9月1日から11月9日まで行われ, 筆者は2, 3年生の体育, 2年生の保健の授業を担当することとなった。

2.1 今回の授業実践で強調したいこと

教える順番を入れ替えた理由は, 私自身が教えやすく, 生徒からしてもイメージしやすく, 理解がより深まると考えたからである。例えば, 今回の授業でいうと「妊娠の仕組み」と「避妊方法」というのが教科書通りに進んでしまうと

別の時間で学習することになっている。避妊具は言葉の説明でもある程度理解できるかもしれないが、妊娠の仕組みについて学ぶ時の教科書に載っている子宮の図を用いることでより、教える側も教えやすくなり、生徒にとってもよりわかりやすくなると判断した。

オリジナルテキストとしては、教科書での「妊娠・人工妊娠中絶」は高校生にも身近に感じてもらうためにコロナ禍で起こった高校生の妊娠の相談件数が増えたことについて三重と神戸の事例を挙げ説明した。ここで教師自身の言葉の説明だけでなく動画を見せることでより現実味を帯びてくるのではないかと考え取り入れた。

「人工妊娠中絶」というのは実際に当事者にならないと深く考えることがないと感じたので、この機会に「人工妊娠中絶」の意義についてディスカッションすることでただ教師が口頭で説明するよりもより深めることができると考えた。

3 授業評価

アンケート結果から男女に差がみられた。とくに「今日の授業に積極的に参加できたか」、「今日の授業の内容について興味を持ったか」、「保健の授業が好きですか」の3つの項目に変化がみられた。3つとも男子の方が高い数値を得ることができているが、男子より女子の方が低いことが分かる。今回の授業の内容は「家族計画と人工妊娠中絶」という思春期の生徒にとっては恥ずかしさなどを感じるころだったので、とくに「人工妊娠中絶」は女子に関係しているのでそういった点からこのような結果になったのではないかと推察できる。

3.1 授業実践力評価スタンダード（体育）による自己分析

授業実践力評価スタンダード（体育）で自分

の授業を自己分析し、「2.あまりできなかった」と回答した項目が「個々の子どもの実態を把握し、指導上配慮することを具体的に挙げている」、「教育内容を理論のレベルで捕らえ構成している」、「単元計画として適切に主題と時間数を割り振っている」、「子どもの語彙の向上や理解力の高揚に努めている」、「突発事故に対処する中から課題を見出し、積極的に教育改善に利用としている」の5項目である。「教育内容を理論のレベルで捕らえ構成している」という項目に対しては先行研究でも問題視されていた「保健に関する専門的素養が低いこと」から内容を理論のレベルで捉え構成するのは非常に困難に感じた。自分自身の知識のレベルをさらに充実させる必要がある。

4 今後の課題

今回授業実践した内容はとくに大事だと思われるところに焦点を当てそこを中心に授業を作成した。そのため教科書に記載されているのに触れることができない部分が出てきた。今後はそれらをどのように取り入れていくのかが考える必要がある。

そして、保健の教科書では「家族計画と人工妊娠中絶」というタイトルになっているが「人工妊娠中絶」は「家族計画」ではないということをしっかり伝えないと勘違いしてしまうので最初にしっかり伝えておくことが大切だと指摘を受けた。

これは自分で授業を行っていて感じたことだが、グループワークの机間指導中に「人工妊娠中絶」について、全然わかっていない生徒がみられたのもっと詳しくディスカッションに入る前に説明しておくべきだったと感じた。

保健体育の授業における「思考力、判断力、表現力等」を育成する構想展開

～資質・能力の3つの柱を育むために～

高度学校教育専攻教科実践高度化系

実習責任教員 松井敦典

芸術・体育系教科実践高度化コース

実習指導教員 木原資裕

保健体育科教育実践分野

氏 名 鳴川 宗志

キーワード: 保健授業, 「思考力, 判断力, 表現力等」, 育成すべき3つの資質・能力

1 課題設定の動機と背景

中学校時代, 筆者にとって保健体育の授業は, 体育分野においては「技能」, 保健分野においては「知識」を重視されているように感じていた。

また, 大学院での教育実習などで保健体育の授業を観察すると, 運動能力に二極化傾向がみられ, 球技の授業では運動能力が高い生徒ばかりが目立ち, そうではない生徒たちはボールに一度も触れることがなく, 一人一人の運動量や体育の授業に対する意欲に大きな差があった。そこで教育実習での授業では, 対象とする生徒の運動能力, 性別, 人数, 環境などの要素から, それに適した場作りや競技のルールを変更するなどの工夫をし, 苦手な生徒でも意欲的に取り組めるような授業を実践した。それにより, 生徒たちの運動に対する「意欲」や他者から認められる「自己有能感」を高める手立てについて実践を通して学ぶことができた。

そこで教科教育課題フィールドワークでは, 保健分野の授業について生徒が意欲的に学べるような授業を構想し, 実践することにした。平成29年度(告示)中学校学習指導要領解説保健体育編では, 指導内容について, 「知識及び技能」, 「思考力, 判断力, 表現力等」, 「学びに向かう力・人間性等」の育成すべき3つの資質・能力をバランスよく育むことが示されている。つまり知識を与えるだけではなく, 理解しているこ

とをどのように使い, 日々の生活にどのように活かしていくかを考えられるような授業を行うことが必要であると考えた。

本報告書は, 以上のような経緯にもとづき, 保健体育科(保健分野)の育成すべき3つの資質能力をバランスよく育むための授業を構想・実践し, 改善を目指してまとめたものである。

2 授業実践方法

授業実践は, 徳島市内のJ中学校の2年生3クラス(100人)を対象に生活習慣病に関する保健の授業を行う。単元の1時間目にはJ中学校の先生が授業を行い, 教科書とワークシート, パワーポイントを活用し, 生活習慣病は日常の生活習慣が要因となって起こる疾病であり, 適切な対策を講ずることにより予防できることを, 心臓病, 脳血管疾患, 歯周病などから理解し, 詳しく説明していただいた。単元の2時間目にその生活習慣病を引き起こす要因と予防の観点から自分自身の生活を振り返り, どのようにして予防をしていくのかを考えていく授業を筆者が担当した。授業中の様子, 授業後のワークシート, ビデオから生徒の変化を考察し, 授業の成果を検討した。

3 授業実践

3-1. 授業実践 1

実践 1 では、グループで KJ 法を行った。「食事」「運動」「睡眠」の中で、自分自身が家庭で実践している生活習慣について考えさせた。それぞれの付箋に貼った意見の中で特に良かった意見をグループで話し合い、さまざまな解決方法の中から適切な方法を選択させた。共有する場面では、自分たちのグループの中でそれぞれの特に良かった意見を発表する活動を取り入れ、他者に分かりやすく表現し、意見を交換させた。

3-2. 授業実践 2

実践 2 では、ワークシートに自分自身の健康課題とその理由、さらにその解決方法を具体的に書き、その後グループで話し合いをする活動とした。また、話し合いをする場面で、ホワイトボードを活用し、意見の共有を容易にし、相手に分かりやすく伝えられるように書き方も指示した。振り返りの場面では、規則正しい生活習慣を行う一次予防、定期的な検査、早期発見・早期予防をする二次予防についても触れ、健康課題を解決する手立てを増やし、生徒が生活習慣病に関して再考できるようにした。

3-3. 授業実践 3

実践 3 では、生活習慣病の課題をワークシートに書き、「食事」、「運動」、「睡眠」のカテゴリに分けて、解決策を導き出す活動を取り入れた。それぞれのより良い改善策の意見を全体で共有することを意図した。また、本単元で学習したことを学校だけに留めるのではなく、身近な生活に活かしていけるように、知識をどう使うかの発展させる場面を授業構成に盛り込んだ。

4 まとめ

生徒は日常生活において身近な健康課題を見つけ、様々な知識・情報をもとに思考し、判断をして、他者と話し合いを通して解決方法を見つけ出し、生活習慣病の予防をする手立てを身に付けることができた。さらに習得した知識を家族や周りの人に分かりやすく表現し、積極的に伝えることの重要性に気づいた。

本報告書の授業実践において、「思考力・判断力・表現力等」を働かせる学びをすることで、育成すべき3つの資質・能力をバランスよく育成することができた。

5 今後の展望

今回の研究では、「生活習慣病とその予防」で「思考力・判断力・表現力等」を働かせる学びをすることで、育成すべき3つの資質・能力をバランスよく育成することができたが、違う単元でも同様の効果が得られるかが課題である。

もう一つの課題が「思考力・判断力・表現力等」に関する適切な評価の在り方である。生徒が「知識及び技能」を活用して課題を解決する等のために必要な「思考力・判断力、表現力等」を身に付けているかを評価することが重要視されている。しかし、今回の実践でグループの話し合いの内容を、時間制限もされる中で何人かの生徒しか聞くことができなかった。全ての生徒の話し合いの内容を聞き、評価することは難しいため、グループで活用したホワイトボードやワークシートの記述を活用する必要がある。その際、記録内容をどのような視点でどのように評価するかの明確化を図り、教員がしっかりと共通理解をすることが大切だと考える。

教育の一番札所



編集・印刷・発行

第3版令和3年2月12日

保健体育科教育実践分野抄録集作成チーム